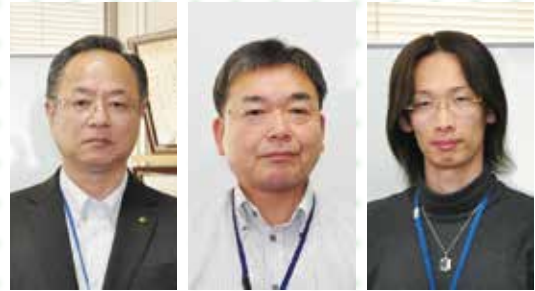


# 勝美印刷 株式会社

●代表者/代表取締役社長 米原 正信 ●創業/1949年3月 ●従業員数/110名  
●所在地/東京都文京区白山1-13-7 ●URL/www.shobix.co.jp

## 効率化で大幅な業務改善 従業員の多能化が顕著に



米原社長

佐藤取締役

眞弓課長

勝美印刷(株)は、昭和23年創業の歴史ある企業で、創業当初は謄写版印刷から始まった。以来、社を取り巻く人々と誠意をもって協調を図り、積極性のある健全経営を目指すことで業務を改善、優れた品質とサービスをクライアントに提供している。現在では、本社を含め東京・葛飾区に立石工場、鳥取県に鳥取支店を持ち、従業員数は110人を数える。

印刷物制作の短納期化、カラー印刷物の増加などから制作の効率化をさらに進めるために導入したのが、富士フィルムグローバルグラフィックシステムズ(株)(FFGS)のワークフローシステム「XMF Complete」と「XMF Remote」だ。システム選定の段階では複数の候補があったが、CTPを含めた生産性の高さや、アフターフォローなどの信頼性、さらにはWebポータルであるXMF Remoteを活用した顧客へのサービス形態

の拡充から同システムを選択したという。

「サポート体制、RIP機能、CTPの生産性など、総合的に見て、XMF CompleteとRemoteを活用すれば、効率が上がると確信した。また、将来を見据えたとき、ネットを活用したサービスラインナップの拡充は必ず必要になる。XMF Remoteは当社の考えにマッチしていた」と、米原社長は導入の決め手を語る。

「XMF Complete」を導入し、さらにプリプレス周辺の業務フローを根本から見直したことで、大幅な業務改善を実現した。その業務改善の一端を担っているのが、「XMF Complete」の強力な処理能力だ。大量の高解像度カラー画像を難なく処理できるようになったことが印刷物の品質向上にも繋がるなど、同社の新プリプレスワークフローを支えている。

「導入当初は、当社独自のこだわり設定をどこまで継



高い効率性を手に入れた

承できるか不安もあったが、FFGSとは綿密なコミュニケーションをとることができ、ワークフローとともに信頼関係も築けたと思っている。XMFが生み出す時間資源の活用に寄せる期待も大きい」と話すのは、同社制作部制作課課長の眞弓裕章氏。

また取締役工場長の佐藤孝夫氏は「当社の仕事は短納期の要求が多いが、XMFを導入してからは充分要求に応えることができている。さらには、社内の業務フロー見直しにより、生産性を維持しながらオペレーターを3人体制から2人体制にでき、トータル製造原価も下がった」と目に見える効果を評価する。このように、「XMF」導入の効果は目に見える効率化として表れているようだ。

同社が取り組む、短納期対応、高品質対応には、得てして長時間作業が常態化してしまう懸念もあるが、「XMF CompleteをセンターRIPとして運用しており、PDF作成やプルーフ・CTP出力などマルチ処理は必須。XMF Completeは高速かつ安定しており、無駄な待ち時間がなくなったことで出力の時間を予測できるようになり、社員の見込み残業時間も算出しやすくなった」と制作部部長の鈴木秀子氏は話してくれた。

同時に、データ処理能力が強化されたことで、突然発生するイレギュラーな事案にも迅速に対応できるようになったのも大きい。

「高速で安定した業務の流れができることで、社員に余裕が生まれた。営業からの急な依頼にも柔軟に対応できるようになり、社内のコミュニケーションもさらに良くなっている」と米原社長。

「XMF」を運用して全体の効率が向上した同社では、プリプレス部門の社員の多能化を推進しているという。以前は特定の社員しか対応できない作業が多くあったために、負荷が偏り、問題が発生した場合にもその担当者に聞かないとわからないことが多かったが、

「XMF」導入後に多能化を推進して以来、不在だからわからないということは激減し、互いに仕事をカバーし合えるようになった。

「仕事を広く見渡せることで、最終印刷物をイメージしながら業務に取り組んでいる」と制作部企画編集課主任の木村亮弥氏は言う。現在制作している印刷物の全体像が分かるまでに社員が成長したと考えている。

「XMF Remote」も導入している同社では、これを活用した営業効率化のためのモデルケース作りに取り組んでいる。現在、営業のモバイル環境化を進めているといい、営業がどこからでも「XMF Remote」を使って、校正指示や承認指示が出せるような仕組みを準備しており、すでに一部の営業部員でトライアル運用を進めているようだ。MISもモバイル対応のシステムへの更新を図っており、近々「XMF Remote」と合わせて、運用を開始する予定だ。

また、強力な処理能力と自動化能力を持つ「XMF」を導入した同社は、POD印刷との連携を行い、その半自動化を達成している。オフセット印刷についても、更なる自動化を進めているというが、「必ずしもすべてを自動化することがベストとは考えていない。当社の強みを発揮するためには、人の手によるフレキシブル性と、自動化による高効率や信頼性の良い部分をうまく組み合わせることが重要である」と制作部企画工程課参事補の茂木信人氏が話すように、同社では人の手が介在する良さと、自動化のメリット・リスクとをどうコントロールしてゆくかが課題と考えているようだ。

「当社はページ物が強い会社だが、チラシ、カタログのほか多種多様な印刷物を総合的に扱っている。XMFによるワークフローの構築で全体の効率化が図られたことの相乗効果によって、納期や品質など、顧客から評価をいただいている」と米原社長は話している。